

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／青葉 暢子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

経済学を学習する意義は、民主主義社会の一員として、経済政策を理解し、自分たちの生活をより豊かにするために積極的に行動することができるようになることである。教育大学に籍を置く教員として、学生が教師となったときに、優れた民主主義社会のメンバーの育成ができるような授業を心がけたい。

授業内容としては、基礎理論の講義とともに、応用可能な経済トピックを取り上げたり、情報経済論等で、不確実な状況下における行動分析を講義する。具体的な授業方法としては、パワーポイント、統計分析等、視覚的な授業実践が行えるように学生を指導していく。授業内容を確実に身につけられたかどうかを適宜判断しながら、成績評価を行う。

2. 点検・評価

公民化教育の意義は、社会的事象に関心を持って、民主主義社会の一員として自主的に判断・行動する能力を養うことである。

そのような判断力を養うことのできる授業展開ができることが、教科教育と学校現場との実践に役立つと考える。

そのために、第1に、社会で今何が起きているのか、そのようなことが起きた原因は何なのかを考えるための基礎的知識の習得が必須である。

「経済学概論」は社会的事象を理解するために必要な授業科目である。

第2に、「経済学概論」で習得した知識を下に理解した社会的事象の中で、自分が求める結果をもたらすためには、どのような行動が適切なのかを考えることができなくてはならない。

「経済学演習」「経済学特論」「情報経済論」「経済学研究(大学院)」「経済学演習(大学院)」では、不確実な社会の中で、状況を的確に判断して自分にとって望ましい行動とは何かを判断することができるような講義を行い、必要に応じて討論、学生による発表を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

今年度、経済ゼミは、学部4年生が2名、大学院長期履修生2年生が1名、私費外国人留学生在が1名なので、学部4年生については、教員採用試験等についての支援と、卒業論文の指導を行う。大学院生については、今年度、協力校において実習へ赴く予定なので、指導案の作成、授業実践等の指導を行う。指導学生以外でも、経済学関係の専門知識を生かした指導、パワーポイントなどを用いたプレゼンテーションの指導、統計ソフトを用いた統計処理の方法、統計資料の見方等、授業の中だけでは十分できない指導を行う。

2. 点検・評価

前期は、「市民社会と公共性(学部)」「経済学演習(学部)」「経済学特論(学部)」「経済学研究(大学院)」「公民文献研究(大学院)」の授業を担当。
そのほか、経済ゼミの学部生の2名については、教員採用試験の受験のための指導を行い、大学院ではフィールド研究の指導を行った。
9月には長期履修生の実習の指導、「経済学演習(大学院)」「経済学概論(学部)」「情報経済論(学部)」「初等中等教科教育実践Ⅰ」の授業を担当。
そのほか、経済ゼミの学部生2名の卒論指導、フィールド研究については、大学院生が4月の成果発表に向けて、協力校の児童にアンケートを実施して、授業の成果の統計分析を行ったので分析の方法から考察まで指導を行い、授業改善の項目が明らかになった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

昨年度、科研申請したテーマについての研究を継続発展させ、内外の学会において研究報告し、積極的に他の研究者との意見交換を行い、研究のブラッシュアップを図る。

2. 点検・評価

6月に生活経済学会全国大会において討論者に指名され、若手研究者にコメントした。
また、これまでの研究成果を集大成して『教育実践学論集』『鳴門教育大学学校教育紀要』に投稿した。
2012年7月に開催予定の公共選択学会への発表申込が受理され、現在、発表論文の執筆中である。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

昨年度に引き続き、大学院入試委員を務め、大学院の定員充足のために尽力する。

2. 点検・評価

昨年度に引き続き、大学院入試委員会委員を務め、大学院の入試業務に従事し、大学院の定員充足のために尽力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

昨年度, 大学院のフィールド研究において, 徳島市立南井上小学校と連携で授業実践を行った。今年度は, 南井上章が高との授業実践の総括を行う。

地域社会への貢献としては, 昨年度より新たに, 鳴門市総合計画審議会委員, 徳島県土地利用審査会委員になり, 徳島県環境審査会委員, 徳島県環境影響評価審査会委員, 徳島県リサイクル認定制度検討審査会委員, 徳島市中小企業振興会対策委員会委員を務めることとなり, 経済学に関する専門知識を生かし, 積極的に地域へ貢献していく。

2. 点検・評価

徳島県土地利用審査会委員, 徳島県環境審査会委員, 徳島県環境影響評価審査会委員, 徳島県リサイクル認定制度検討審議会委員,

徳島市中小企業振興対策委員会委員, 鳴門市総合計画審議会委員を務め, 経済学に関する専門知識を生かして積極的に地域へ貢献している。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)